

食育推進評価専門委員会において提出された意見等

総合的な観点

意見の内容	事項	重点課題	関連する重点課題	対象者等	支援者等	手段等	その他
SDGsのように見やすく分かりやすい、一目見てみんなが分かるような象徴みたいなものを何かで表す方法も、これからは入れる必要があるかもしれない。	—	総合的な視点		国民	関係府省庁	情報提供	SDGs
SDGsの考えに基づき、幅広く食育を捉えていくことが重要。発信方法についてもSDGsのロゴマークを参考にするなど検討してほしい。	—	総合的な視点		国民	関係府省庁	情報提供	SDGs
食育は、関係者のWin-Winの関係がないと続かない。続けるインセンティブが必要。関係省庁が連携して、学校・職場・地域・産業・文化・伝統につながるような一つの大きなサイクルを作りたい。	—	総合的な視点		国民	関係府省庁		
20代、30代の親から始まって、子供たち、そして子供が思春期になり、結婚前の女性、男性、そしてまた親世代というサイクルをどう捉えていくのか。サイクルをきちっと組み立てた基本計画ができるとありがたい。	—	総合的な視点		国民	関係府省庁		
「弁当の日」の取組や農林漁業体験は、継続して行われることで効果がある。一人の人間のライフステージにおいて継続して食育が行われているか、という視点での検証が重要。	—	総合的な視点		国民	関係府省庁		弁当の日
目標について平成27年度から改善がみられない数値は、その原因や理由を整理すべき。	—	総合的な視点		委員会	関係府省庁	目標	
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日とっている割合よりも、「ほとんどない」という回答が13.6%まで上がっており、むしろこちらの方が問題。本質的に食育という健やかな食生活を考えた時に、どこに目標値を立てるかを考えることが重要。	—	総合的な視点			関係府省庁	目標	
各省庁の取組についての広報は農水省が一括、または所管の省庁毎に行っているのか。ニュースになるものがたくさんあるので、上手く広報していただきたい。	—	総合的な視点		国民	関係府省庁	情報提供	
食育推進基本計画や家庭教育の冊子が浸透しているのか疑問。現場の父母にまで情報が届くにはどうすればよいのか。	—	総合的な視点		国民	関係府省庁	情報提供	
SNSを活用した広報については、関心を引くようなタイトルなどの工夫が必要であり、パンフレットなども公表するだけでなく、設置場所も考える必要。毎日3食摂ることの重要性を国民に広報していくことも大事。	—	総合的な視点		国民	関係府省庁	情報提供	
なぜ食育が大事なのかを、子供、若い世代、そして教師が理解し、伝えられるよう、農林水産省が収集・公表しているエビデンスの整理は大事。	—	総合的な視点		国民	関係府省庁	情報提供	エビデンス

(1) 家庭における食育の推進

意見の内容	事項	重点課題	関連する重点課題	対象者等	支援者等	手段等	その他
早寝早起き朝ごはんが始まって12年、継続はとても大事。次のステップとしてどこを目指すのか。暮らしが多様化し、早寝早起き朝ごはんの実践が困難な世帯、子供もたくさん出ている現状もある。	家庭	若い世代を中心とした食育の推進	多様な暮らしに対応した食育の推進	子供		国民運動	朝食欠食 貧困家庭
早寝早起き朝ごはん運動は、保護者・先生にとって、食育の大きな役割を担っている。子供が望ましい生活習慣を身に付けることが、健康寿命の延伸にもつながっていく。	家庭	若い世代を中心とした食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	子供	保護者、学校等	国民運動	朝食欠食
北欧では20時に子供は就寝。早寝早起き朝ごはんの教育をしている。	家庭	若い世代を中心とした食育の推進		子供		国民運動	朝食欠食
朝食欠食の地域別の現状を把握すべき。また、朝食摂取等のためには、家庭教育が重要であるが、真に理解してもらうことが必要な家庭にどう働きかけていくのかを引き続き考えていきたい。	家庭	若い世代を中心とした食育の推進	多様な暮らしに対応した食育の推進	子供		分析手法	朝食欠食
親が食事を準備することも大事だが、子供が自分で朝食を作ったり、栄養バランスを考えて何を選択すればよいかといった力を身に付けるためのきっかけ、教育が大切。	家庭	若い世代を中心とした食育の推進		子供			
子供が自ら買い物し、メニューを決め、調理する「弁当の日」の取組は、まさに食育の実践と言え、教わるのではなく自ら学ぶことで効果がある。	家庭	若い世代を中心とした食育の推進		子供			弁当の日

30～40歳代の父親の理解が、健康寿命を延伸し、子供の食育を推進するのではないかな。	家庭	若い世代を中心とした食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	子供	保護者		
親世代が食育を知らないと子供たちにも教えられない。家庭教育に食育を入れてほしい。	家庭	若い世代を中心とした食育の推進		保護者			
保育所の児童の保護者は、中学・高校時代に食育を学んでいないが、1回でも 保護者へ食育の働き掛けを行うと、意識も変わり 、家庭での食育にもつながる。	家庭	若い世代を中心とした食育の推進		保護者			
未就学児もiPadやスマートフォンでSNSを見る中で、ここの捉えどころは大きい。	家庭	若い世代を中心とした食育の推進		子供		情報提供	
給食は、1年間の子供の食事全体の6分の1でしかなく、残りは家庭であることをしっかり伝えていく必要。	家庭	若い世代を中心とした食育の推進		保護者		給食	
食育の最小単位は家族。共働き世帯の増加や「働き方改革関連法」の施行は食育への追い風。 両親が働きながら家族一緒に食事できるよう、例えば、食べ方改革のようなキャッチフレーズを考えてもいいのではないかな。	家庭	若い世代を中心とした食育の推進		国民			働き方改革

(2) 学校、保育所等における食育の推進

意見の内容	事項	重点課題	関連する重点課題	対象者等	支援者等	手段等	その他
学校給食は1か月前から予定を立てなくてはいけないので、それに見合うものを予定していても、予定通りにできないことがある。 地産地消コーディネーターの役割が、非常に大きい。	学校、保育所等	多様な暮らしに対応した食育の推進		学校等	関係府省庁	給食	地産地消
学校給食における地場産物や国産食材の使用割合 について、原料調達のみも含めて、 JAがコーディネーターをやること など、都道府県や市町村の首長に働き掛けを行うべき。	学校、保育所等	多様な暮らしに対応した食育の推進		子供	関係府省庁	給食	地産地消
学校給食に野菜を提供する 生産者組織の高齢化が進行 。生産者組織の継続的な活動に向けて、例えば JAや行政等が支援し、学校給食の地場産物の活用を支える体制づくりが必要 。	学校、保育所等	食の循環や環境を意識した食育の推進		生産者	関係団体、関係府省庁	給食 組織づくり	地産地消
高齢化した生産者組織もあり、後継者育成が急務 。鹿児島県では、 教育機関が農政と連携を図りながら給食施設毎に生産者組織の育成 に着手。その育成を農政サイドが担うことで学校給食との連携を進めている。	学校、保育所等	食の循環や環境を意識した食育の推進		生産者	関係団体、関係府省庁	組織づくり	地産地消
地場産物活用の推進で、旬の食材がそのときだけ大量にできても、その一瞬のときにしか給食で使えないとなると非常にもったいない。 チルドであったり、冷凍加工であったり、そういった一次加工品的なものを作って給食で使えるようになればもっと地場産物の使用率も上がるのかなど考えている。	学校、保育所等	多様な暮らしに対応した食育の推進		子供	学校等	給食 原料供給の円滑化	地産地消
給食の食材をどのように選択するかを子供たちに伝えていくかを考えると、地域や国産の食材をおのずと選んでいくのではないかな。学校教育だけに任せず、多方面と連携して学校給食を充実できたらよい。	学校、保育所等	食の循環や環境を意識した食育の推進		子供	学校等、関係府省庁	給食	地産地消
地場産物の使用を進めたいが、季節や気候等により収量が上がらないために、学校給食に利用できないケースもある。	学校、保育所等	食の循環や環境を意識した食育の推進		—		給食	地産地消
地場産物や国産食材の使用割合の目標値に到達できない理由がコスト面なのであれば、この問題に対してどのようにアプローチをするべきかを検討すべき。	学校、保育所等	食の循環や環境を意識した食育の推進		—		給食	地産地消
学校給食における地場産物や国産食材の使用割合が横ばいである理由は、価格だけではなく、 流通体制等の問題もある と考えられる。教育現場だけの課題解決は困難であるため、 多分野横断的な取組を検討する必要 がある。	学校、保育所等	食の循環や環境を意識した食育の推進		学校等	関係団体、関係府省庁	給食 組織づくり	地産地消
学校給食での地場産物の使用割合 について、70～80%台の県もあると実感しているが、平均すると20数%。 地域、実施主体の意識等により違いがあるため、一歩踏み込んだ要因分析ができると良い。	学校、保育所等	食の循環や環境を意識した食育の推進		学校等	関係府省庁	分析手法	地産地消
地場産物の使用割合は、使用量の多いものも、少ないものも、同じ一品としてカウントした上で、地場産物の食品数の割合で算出しているため、数字が上がりにくい。	学校、保育所等	食の循環や環境を意識した食育の推進		—		目標	地産地消
地場産物を使用する割合、国産食材を使用する割合の両方を見た数値という形で進めていかないと、 全ての市町村が地場産物を使える状況にはない。	学校、保育所等	多様な暮らしに対応した食育の推進		子供		給食	地産地消
目標値として地場産物だけでなく国産食材があることがよい。地域によっては、 学校給食として使用できる地場産物が少ない等の事情がある。	学校、保育所等	食の循環や環境を意識した食育の推進		—		目標	地産地消
学校給食で、国産や地場産物を使えばコストが上がってしまうが、傷などで廃棄される国産食材を活用していけば、資源の無駄やコストの削減ができるのではないかな。	学校、保育所等	食の循環や環境を意識した食育の推進		学校等		給食	食品ロス削減

食育基本法が制定された当時の小・中学生は20歳代になった現代、若い世代の食育が問題になっていることは、今後、もっと根本的に働き掛けていく必要がある。 無関心層にどう働き掛けていくのが重要であり、学校給食の充実に期待。 給食を実施している学校が多いことから、幅広い家庭の子供に対しても教育をすることが可能。	学校、保育所等	若い世代を中心とした食育の推進	多様な暮らしに対応した食育の推進	子供		給食	
「共食」の良さを、一番理解できるのが学校給食の場 である。	学校、保育所等	多様な暮らしに対応した食育の推進		子供	学校等	給食	
栄養が十分にとれない家庭が増えている中で、 学校給食の役割は非常に大きい。 小・中学校の学校給食実施率100%の早期達成をお願いします。	学校、保育所等	多様な暮らしに対応した食育の推進		学校等	学関係府省庁	給食	
学校給食をもって1日の食事となっている子供もいれば、家庭でいろいろな料理が並んでいるのに十分な食べ方をしていない子供もいる。 望ましい食習慣を形成する上で、学校給食は非常に重要。 学校給食が100%実施され、義務教育における学校給食は義務として行われるようにしてほしい。	学校、保育所等	多様な暮らしに対応した食育の推進		子供	学校等、関係府省庁	給食	
保育所・こども園の給食は、アレルギー対応も必要 であり、重要な食育を担っている。保育所等の調理員にも栄養士等の資格は必要。	学校、保育所等	若い世代を中心とした食育の推進		子供	管理栄養士、栄養士	給食	食物アレルギー
学校給食の100%実施を目指すことはよいが、 アレルギーのため、皆と同じ物が食べられず我慢している児童もいることを視野に入れてほしい。	学校、保育所等	多様な暮らしに対応した食育の推進		子供	学校等、関係府省庁	給食	食物アレルギー
中学校における給食実施率は90%以上となったが、地域的な偏りはないのか。また、運動部への加入等、個人差があるので、自由に食べる量をコントロールできるのか。	学校、保育所等	多様な暮らしに対応した食育の推進		子供	学校等	給食	
栄養教諭の配置は、都道府県毎に格差 がある。学童期・青少年期の食育は若い世代の基盤になるため、栄養教諭の 配置が進むよう支援が必要。 朝食欠食も含め、学校では 栄養教諭が対応している ので、 配置をさらに進めてほしい。	学校、保育所等	若い世代を中心とした食育の推進	食の循環や環境を意識した食育の推進	子供	学校栄養職員、栄養教諭		
朝食摂取のために、体をしっかり動かし、しっかりと食べるという体験をさせることが必要。	学校、保育所等	若い世代を中心とした食育の推進		子供			朝食欠食
朝食欠食など食生活や食への意識等について、全国の学校で調査を実施し、栄養教諭がどれぐらい食育を行っている、どこが不足しているのかを調査していきたい。	学校、保育所等	多様な暮らしに対応した食育の推進	食の循環や環境を意識した食育の推進	子供	栄養教諭		朝食欠食
小学生は歯の生え変わりや口腔機能の発達の時期 であり、きちんと噛んで食べられるか等、食べ方について 学校で指導を行うことが重要。	学校、保育所等	若い世代を中心とした食育の推進		子供	学校等	授業	歯科保健
高校生は、アンケートでも7割が「食育」の意味を知っていると回答するが、実践については、適切なバランスがとれていない、お菓子や清涼飲料水の摂取が多い。 自分で意識を持った生活が必要となってきたことを 自覚させることが大事。	学校、保育所等	若い世代を中心とした食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	子供			食事バランス
私立高校は校長先生の一存で実施できることで食育活動の実行が可能。一方、公立高校では1年、2年で終了してほしい等、入り方が難しい。	学校、保育所等	若い世代を中心とした食育の推進		学校等			
大学生になるほど保護者の管理が困難になるので、大学や専門学校の学食等での普及・啓発も必要。	学校、保育所等	若い世代を中心とした食育の推進		若い世代	学校等		
食育活動表彰を受賞している大学のほとんどが管理栄養士・栄養士養成施設。一方、 専門家がいらない大学でも学生食堂や教養教育等で、もう少し食育を推進してほしい。	学校、保育所等	若い世代を中心とした食育の推進		若い世代	学校等		
保育所や認定こども園でも、アレルギー対応や食育を進めている。 若い親世代の意識啓発も含め、0歳から就学前の子供にも目を向けて食育に取り組むことが重要。	学校、保育所等	若い世代を中心とした食育の推進		子供			
食の問題も含めて、子供たちに教えることが一番親が変わること。	学校、保育所等	多様な暮らしに対応した食育の推進		子供	学校等		
出前授業等の人材がいるものの、学校の食育の場に入りづらい現状がある。一定の講座や研修等の講師の登録ができる制度があればよい。	学校、保育所等	食の循環や環境を意識した食育の推進		学校等		制度づくり	
子供たちの取組に対する表彰等を増やすこと で、子供たちの挑戦を通して、 食育に興味を持つきっかけになるのではない か。	学校、保育所等	若い世代を中心とした食育の推進		子供		表彰	
中学校において給食や食育がうまくつながっている好事例 を集めていただきたい。	学校、保育所等	若い世代を中心とした食育の推進		国民		情報提供	

(3) 地域における食育の推進

意見の内容	事項	重点課題	関連する重点課題	対象者等	支援者等	手段等	その他
手軽にバランスのよい食事をとりたい、といった若い世代の意見もある。	地域	若い世代を中心とした食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	若い世代			食事バランス
成人してからの食育の取組をどう充実させるのか。食品企業などの社会の提供側の目標あるいは活動を支援することも重要。	地域	若い世代を中心とした食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	企業	関係府省庁		
外食・中食の利用が多い方は主食・主菜・副菜をそろえる頻度が少ないというデータがあるが、そういうことに対応しようということで、日本栄養改善学会を含め9学会1研究会の10団体でスマートミールという取組を展開。社会環境側の整備も、食育の中で位置付けていきたいし、フードサービス協会等には頑張ってもらいたい。	地域	多様な暮らしに対応した食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	企業	学会、関係府省庁	認証	
スマートミールについて、外食・中食事業者による熱心な取組が見られる一方で、価格が高くなることもあり、関心のない人や経済的に選択が難しい人への対応に課題。	地域	多様な暮らしに対応した食育の推進		企業	学会、関係府省庁	認証	
機能性農産物を活用した健康都市づくりの支援について、地域の農畜産物をいかした取組ということで、もっと力を入れていただきたい。	地域	健康寿命の延伸につながる食育の推進	食の循環や環境を意識した食育の推進	—			地産地消
日本型食生活の普及活動の支援等、地域の農畜産物をいかした食育に、もっと力を入れていただきたい。日本型の食生活の普及と一緒に、自給率が上がるとよい。	地域	食の循環や環境を意識した食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	—			
食料自給率が世界の中で低い現状を踏まえ、持続可能な農業を維持し、地産地消を進め日本型食生活を続けられるようにしていくことが重要。	地域	食の循環や環境を意識した食育の推進					
社会全体が忙しい中、よく噛んで食べられる環境づくりが必要。歯科医師会・学会において高齢者の口腔機能低下症にも取り組んでいるので、国民にも意識してほしい。	地域	健康寿命の延伸につながる食育の推進		高齢者			歯科保健
障害児の摂食嚥下機能の不良さに関しても、食育の中で取り組んでいきたい。	地域	健康寿命の延伸につながる食育の推進		障害児			歯科保健
子供食堂と連携した実態調査から上がってきた課題について支援を充実させてほしい。	地域	多様な暮らしに対応した食育の推進		子供	関係府省庁	支援等	子供食堂
子供食堂は民間から自発的にスタートしたが、ほぼ毎日、特定の個人に対して食事を提供するようになると、給食運営のノウハウが必要。衛生面が適切に対応できていないと、トラブルが発生した場合に、取組に水を差すことになりかねない。将来的には栄養士に相談できるような仕組みを考えてほしい。	地域	多様な暮らしに対応した食育の推進		子供	管理栄養士、栄養士	情報提供	食品衛生 子供食堂
子供食堂には、ほとんど毎日、子供の居場所を提供しているところもあるが、そうした子供食堂では運営費用等で課題も多い。	地域	多様な暮らしに対応した食育の推進		子供			子供食堂
子供食堂は、本当に来てほしい人に来てもらえないという問題があると聞かすが、服装や給食のおかわりの様子など、学校は、子供の状況を把握・気づきやすい場なので、支援の場へつなぐプラットフォーム的な役割を学校が果たすことも必要。	地域	多様な暮らしに対応した食育の推進		子供	学校等	情報提供	子供食堂
20代から40代の子育て世代への啓発が最も重要で、SNSを通してのPRが有効。啓発等に参加しない方たちにも広く届けられる政府広報のようなものがあると幅広く啓発になるのではないかな。	地域	多様な暮らしに対応した食育の推進		若い世代		情報提供	
20～30歳代への食育の推進が弱い。企業の自主性と個人のマインドにかなり依存。経済産業省の健康経営銘柄は、食育が企業のステークホルダーにメリットとなる取組。現在、ESG（環境・社会・ガバナンス）やSDGs（持続可能な開発目標）の取組が企業に重要となっており、今後、食育をESGやSDGsのカテゴリーの中に取り入れれば、企業が資本市場を利用しながら取組が進んでいくのではないかな。	地域	若い世代を中心とした食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	若い世代	企業		健康経営
企業経営において、収益と同様にESG、SDGsが重要となっており、農林業行体験、食品ロスの問題は、まさしく結び付く論点になることから、企業活動の中でESGにつながるリンケージを作っていく、企業という主体が積極的に取り組むことが重要。	地域	食の循環や環境を意識した食育の推進		企業		情報提供	農林漁業体験 食品ロス削減
多くの企業がSDGsの各項目に取り組んでいる。食育とSDGsとの関係を深掘りし、ESGと結び付けていくと、企業の取組が深化する。	地域	若い世代を中心とした食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	企業	関係府省庁		SDGs

健康経営の具体的な取組を社会に対して発信することで、大学や研究機関が何をすべきか、連携先がどこにあるかが見えてくる。今後、具体的な情報を提供してほしい。	地域	若い世代を中心とした食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	国民	関係府省庁	情報提供	健康経営
健康経営に関して注目されるのは大企業中心。保健所単位で企業の従業員の健康づくりのための食生活をどう進めるかという施策をやっているが、中小企業が実際に取り組むといってもなかなか難しい。その辺りも施策としての取組が必要。	地域	若い世代を中心とした食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	企業	関係府省庁		健康経営
健康経営を中小企業でも取り組めるよう関係省庁が協力して進めてもらいたい。	地域	若い世代を中心とした食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	企業	関係府省庁		健康経営
健康経営が企業の中で広まれば、小・中・高校で学んできた食育がそこでいかされる。	地域	若い世代を中心とした食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	若い世代			健康経営
学校現場だけでなく、健康経営という視点の会社、減塩等に取り組む食品企業の登録数を増やし、自分もやらなければと呼び起こすような刺激が周りがあると良い。	地域	多様な暮らしに対応した食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	若い世代	企業		健康経営
働き方改革 の先にある生き方改革なのか、家族と一緒にご飯を食べられるという、働く男性を結び付けるような流れが来ており、 企業を巻き込んでいくことが、今後の食育のトレンドとなる。	地域	多様な暮らしに対応した食育の推進		若い世代	企業		働き方改革
「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理に関するガイドライン」が、様々な事業者 に活用されることを期待している。	地域	健康寿命の延伸につながる食育の推進		高齢者	企業		

(4) 食育推進運動の展開

意見の内容	事項	重点課題	関連する重点課題	対象者等	支援者等	手段等	その他
市町村食育推進計画の作成の割合は、増加を続けているが、このままでは100%を達成は困難。マンパワー不足の町村へは、 広域連携の枠の中で作成を進めるべきではないか。	食育推進運動	総合的な視点		自治体			

(5) 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等

意見の内容	事項	重点課題	関連する重点課題	対象者等	支援者等	手段等	その他
農林漁業体験は、育てるところから順番に手入れをして収穫して、どういう料理をして食べるかというストーリーを持って、体験するというのが大事。	生産者と消費者との交流の促進等	食の循環や環境を意識した食育の推進		子供			農林漁業体験
他の目標値と比較して、 農林漁業体験を経験した国民の割合40%の目標値は低い ため、 もっと高く目標値を掲げて もよい。皆が農林漁業体験をすることにより、日本の食材の役割をもっと学べるのではないか。	生産者と消費者との交流の促進等	食の循環や環境を意識した食育の推進		—		目標	農林漁業体験
酪農ファームに参加し、 命や感謝を学んだ子供が親世代になって、食に対する力が付いている。小学校生活を通じ、1年に1回から2回は体験学習を導入し、農業、環境、健康、福祉を学び、自ら選択できる力を養ってほしい。	生産者と消費者との交流の促進等	食の循環や環境を意識した食育の推進		子供			農林漁業体験
既に学校では生徒に様々な体験活動をさせており、これをきっかけにして他に広がり、継続できる場があれば良い。	生産者と消費者との交流の促進等	食の循環や環境を意識した食育の推進		子供			農林漁業体験
農林漁業体験は、他の団体と手を組んで食育を進める方法もある。	生産者と消費者との交流の促進等	食の循環や環境を意識した食育の推進		子供			農林漁業体験
農林漁業体験は地域づくりに役立っており、政府からの引き続きの支援をお願いする。	生産者と消費者との交流の促進等	食の循環や環境を意識した食育の推進			関係府省庁		農林漁業体験
農林漁業体験を学校で行うに当たり、来年度に向けて苦慮しているのは、授業等の時数確保。時間を新たに設けるわけではなく、今ある教科の中で取り組むことをやっていかなければならない。	生産者と消費者との交流の促進等	食の循環や環境を意識した食育の推進		子供			農林漁業体験
食品ロスの削減は、 外食などロスが出る現場での工夫が大事。	生産者と消費者との交流の促進等	食の循環や環境を意識した食育の推進		企業		国民運動	食品ロス削減
国民が食品ロスへ取り組むことは当然であるが、 事業者の取組も重要。	生産者と消費者との交流の促進等	食の循環や環境を意識した食育の推進		企業		国民運動	食品ロス削減

(6) 食文化の継承のための活動への支援等

意見の内容	事項	重点課題	関連する重点課題	対象者等	支援者等	手段等	その他
高校生が地域の方たちから地域の食文化や農業体験等を通して学んだことが、学生を育て、地域づくりに役立っている。このような地域のコーディネートも必要。	食文化の継承	食文化の継承に向けた食育の推進	食の循環や環境を意識した食育の推進	子供	コーディネーター		食文化伝承 農林漁業体験
農作物の保護・継承に関する取組も、GI（地理的表示保護制度）の対象でなくても「食文化の継承に向けた食育の推進」に取りあげていただきたい。	食文化の継承	食文化の継承に向けた食育の推進		—	関係府省庁		食文化伝承
食文化の継承と併せて、主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を推奨する等、健康寿命の延伸に結び付けた取組を進めてもよいのではないか。	食文化の継承	食文化の継承に向けた食育の推進	健康寿命の延伸につながる食育の推進	—			食文化伝承 健康寿命の延伸

(7) 食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進

意見の内容	事項	重点課題		対象者等	支援者等	手段等	その他
食品の安全性について若い世代が自ら判断するという項目について、最近、意外と表示などを見ない若い人が増えていることが気になっている。	食品の安全性等	若い世代を中心とした食育の推進		若い世代		情報提供	
食品表示について、表示すべき内容は増える一方で、食品のパッケージは小さくなり、見えにくくなっているため、例えばQRコードを使い、ウェブサイト上で見るなどの対応ができないか。	食品の安全性等	多様な暮らしに対応した食育の推進		国民		情報提供	